

令和5年(2023年)10月4日

関係小学校・中学校・高等学校・中等教育学校長・英語科主任 様

第65回北海道小学校・中学校・高等学校英語教育研究大会(2次案内)

北海道小学校・中学校・高等学校英語教育研究大会大会長

(北海道小樽桜陽高等学校長) 西 川 勤

北海道小学校・中学校・高等学校英語教育研究大会副大会長

(札幌市立北野台中学校長) 大 道 弘 孝

北海道小学校・中学校・高等学校英語教育研究大会副大会長

(札幌市立登寒西小学校長) 関 敏 明

主題「小・中・高連携を踏まえた英語教育をどう進めるか」

近年のグローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上は、喫緊の課題になっており、英語教育に寄せられる期待は益々大きなものになっています。

新学習指導要領の実施で、小学校の外国語が教科化されて3年が経過し、今回から小学校を交え、「北海道小学校・中学校・高等学校英語教育研究大会(小中高英研)」として、小学校・中学校・高等学校の英語教師が一堂に会し、より望ましい英語教育の在り方を小中高連携の視点から追究することを目的に開催することとなり、これまで積み上げてきた成果を礎に、さらなる北海道の英語教育発展を目指すこととしました。

つきましては、英語教育についての情報交換や意見交流等を通して有意義な研修の機会となることを願い、ここに御案内申し上げます。

記

- 1 日 時 令和5年11月24日(金) 9:20~16:30
- 2 場 所 ホテルライフオート札幌(札幌市中央区南10条西1丁目)
- 3 主 催 北海道小学校英語教育研究会 北海道中学校英語教育研究会
北海道高等学校英語教育研究会
- 4 後 援 北海道教育委員会 札幌市教育委員会 北海道小学校長会 札幌市小学校長会
北海道中学校長会 札幌市中学校長会 北海道高等学校長協会
- 5 参加費 2,500円 ※当日受付にてお支払ください。
- 6 申 込 次のQRコードを読み込み、11月6日(月)までに申込をしてください。



<https://forms.gle/1rdT3Sizs1XRD8Sq8>

7	大会日程	
	9 : 0 0 ~	受 付
	9 : 2 0 ~	開会式
	9 : 4 5 ~	提言発表および意見交流

◆提言 1 : 『生涯にわたる英語学習の土台づくり』

～理論と実践から見えてきた小学校英語の実際～』

札幌市立宮の森小学校 教諭 平 山 伸 正

小学校で現行の学習指導要領が全面実施されて4年目。言葉を身につけるための土台づくりへと、小学校英語は大きく変化しようとしています。その中で児童が「分かる・できる・楽しい」と実感できる英語教育のあり方を、理論と実践を往還しながら模索してきました。本提言では、臆げながらも見えてきたその「カタチ」について共有します。

◆提言 2 : 『発信力をつけるためのインプット』

札幌市立北野台中学校 教諭 中 井 あやめ

教科書で学んだ内容を活用し、英語を使って自分の言いたいことを発信することを目標に日々指導をしています。特に、書く力と話す力を身に付けるために、どのような方法があるか、小中高のつながりを踏まえ、授業での実践とその結果について報告いたします。

◆提言 3 : 『英語を「体感」する環境づくり』

北海道鹿追高等学校 教諭 吉 田 織 江

小学校・中学校・高等学校のいずれも、卒業後の進路選択肢が多岐にわたる時代となりました。鹿追高校には「国内留学」として、北海道外から来ている学生がいたり、在学中に留学したり、卒業後に海外に出る生徒がいます。2年生全員が参加するカナダ短期留学をはじめ、「海外に出ること」を念頭に置いた本校の学習環境作り等を紹介させていただき、子どもたちのこれからの進路選択方法について、一緒に考察できる場となれば、と思います。

11 : 30 ~ 助言

◆札幌市教育委員会

◆札幌市教育委員会

◆北海道教育庁学校教育局高校教育課

指導主事 高 橋 文 氏

指導主事 丸 山 未 来 氏

主 査 加 藤 洋 平 氏

11 : 55 ~ 昼食・休憩

13 : 00 ~ 公開授業

◆授業者 : 北海道札幌国際情報高等学校 教諭 木 村 準 一

◆生 徒 : 北海道札幌国際情報高等学校 1年普通科2組40名

◆教科書 : CROWN Logic and Expression I

高校の必修科目「論理・表現 I」を参観いただきます。実際のコミュニケーションで活用できる文法学習を柱に据え、英語による対教師、生徒同士のやりとりを通して、学習内容に対する理解を段階的に深めながら言語運用能力を高める活動を取り入れた授業例を紹介します。

14:05～ 助言
14:20～ 意見交流
14:45～ 講演・質疑

◆講演主題

“定型表現から考える小中高英語教育の連携—定型性と可変性の視点から—”



講 師：田中 洋也 氏

北海学園大学人文学部 大学院文学研究科教授

本講演では定型表現(formulaic sequences)から小中高英語教育連携の可能性を検討します。定型表現は「連続的であれ非連続的であれ、あらかじめ組み立てられている、または組み立てられているように思われる、語や他の意味を持つ要素によるつながりであり、文法によって生成、分析されるものというよりも、ひとつのまとまりとして記憶に貯蔵され、言語使用の際に想起されるもの」(Wray, 2002, p.8)と定義されています。Nice to meet you. Thank you so much. などもその仲間です。英語で文を産出するときは語彙を文法規則に従って組み立てるという意識があるかもしれませんが、定型表現はそれとは異なり、かたまり(chunk)や全体(whole)としてそのまま、あるいは少しずつ形を変えて産出されるものです。定型表現にはいくつかの利点があります。言語機能を実現する(例、I'm really sorry about X. で謝罪を行う)、会話を維持する(例、How are you? See you later. などで会話やりとりの段階を知らせる)、談話構成を標示する(例、on the other hand, as I was saying など)、語用論的価値を表現する(例、I don't know if X は命題について不確かであることを表す)などがその代表です(Schmitt & Schmitt, 2020)。本講演は、小中高英語教科書で用いられる定型表現を例に、その定型性と可変性に注目しながら、小学校、中学校、高等学校の英語教育の連携について参加者の皆さんと考える機会にしたいと思っています。

【講師プロフィール】

田中洋也(たなか・ひろや)北海道教育大学旭川校卒、北海道士別商業高等学校教諭、北海道札幌南陵高等学校教諭、北海道情報大学経営情報学部講師を経て、現在、北海学園大学人文学部、大学院文学研究科教授。北海道大学大学院国際広報メディア研究科博士後期課程修了(博士 国際広報メディア)。専門は外国語学習環境下の英語教育、語彙学習、個人差要因、コンピュータ支援語学学習(CALL)など。これまでに電子ポートフォリオ Lexinote、コンピュータ適応型語彙学習モバイルアプリケーション DoraCAT などを開発、現在は企業と協働してAIを利用した口語定型表現学習機能の開発に取り組んでいる。

16:25～ 閉会式
16:30 終了
17:00～ 懇親会(会費5,000円)

高英研 HP <http://www.koeiken.hokkaido-c.ed.jp>

北中英研 HP <http://hokucyueiken.ni-3.net/>

札中英研 HP <https://scek-sapporo.blogspot.com>

北小英研 HP <https://hsek662967621.wordpress.com>

■大会事務局 (当番校) 北海道小樽桜陽高等学校 〒047-0036 小樽市長橋3丁目19-1 (三浦)
札幌市立西野中学校 〒063-0038 札幌市西区西野8条7丁目5-1 (山口)
札幌市立藻岩小学校 〒005-0807 札幌市南区川沿7条2丁目3-1 (鉾崎)